

すべての人に情報が伝わるために

インタラクション理解に基づく調和的情報保障環境の構築

坊農真弓 (コンテンツ科学研究系, 助教)

bono@nii.ac.jp

研究紹介

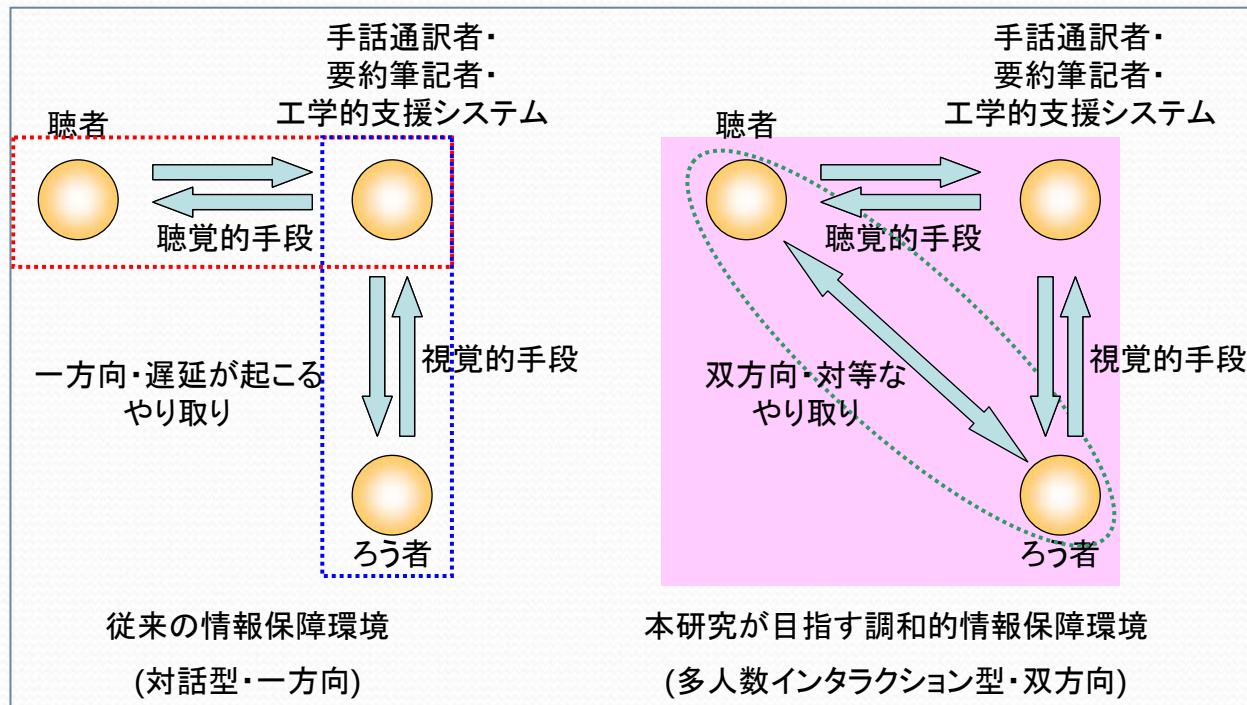


We investigated the nature of interactions in a Deaf community.

なぜ「インタラクション理解に基づく」のか？

- これまでの「言語問題」「言語政策」の研究
 - トップダウン型＜インタラクションの整理＞
 - 問題を解決可能であることを前提に進める
 - 早期解決志向型
- 「インタラクション理解に基づく」本研究
 - ボトムアップ型＜インタラクションの炙り出し＞
 - 当事者の視点から問題を理解し、解決策を探る
 - 実世界ニーズ発見型

対話型から多人数インタラクション型へ



問題点：

通訳者への負荷が高すぎる
ろう者と聴者の関係が希薄

対話型から多人数インタラクション型へのパラダイムシフト

互いに使用言語の異なるろう者と聴者の直接的やり取り
遠隔コミュニケーション環境に耐えるコミュニケーションモデル
互いの参与役割を理解した多人数型情報伝達

学術ミーティング支援・学会支援



読書会での風景

日本手話学会での講演



分析事例： 二つの言語が出会うとき

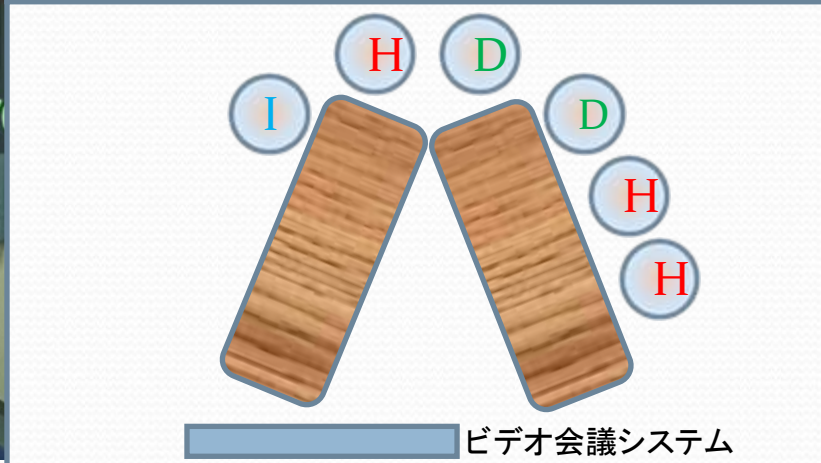
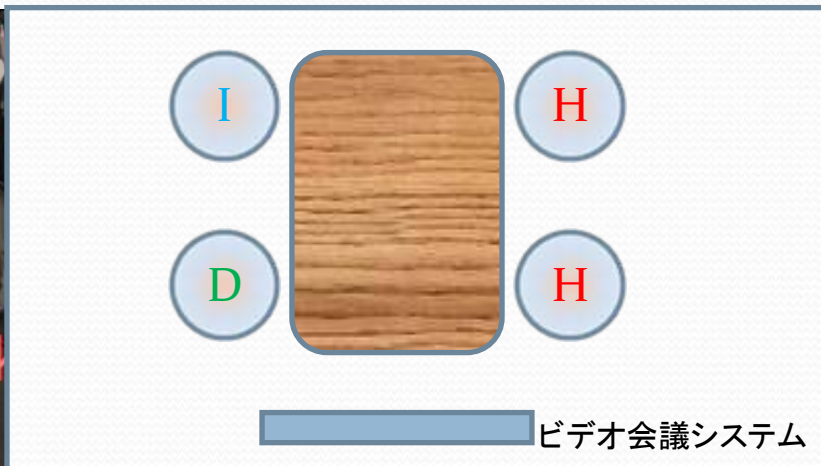
H: 聴者
D: ろう者
I: 手話通訳者



Camera-A



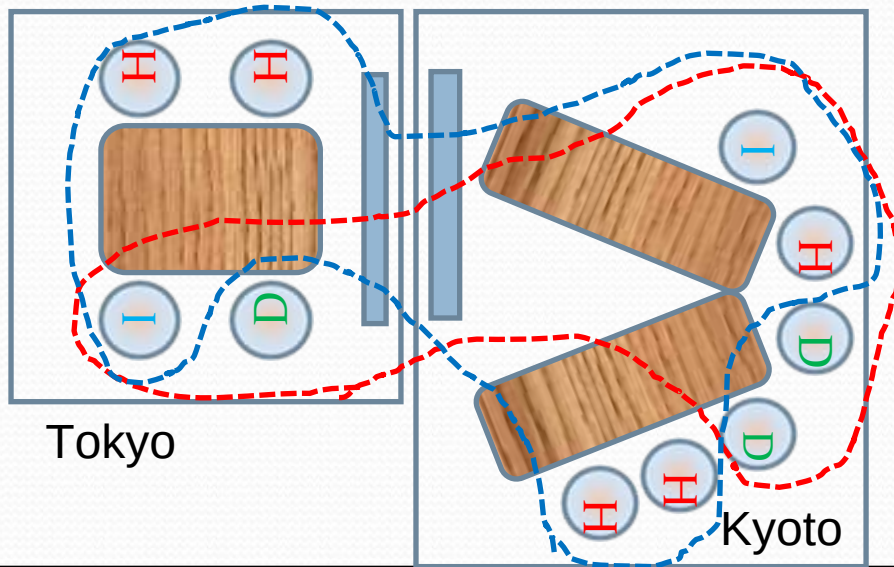
Camera-C



参与枠組み(Goffman, 1981)



- 手話通訳者がつなぐ二つの参与枠組み
 - 視覚的参与枠組み(赤点線)
 - 聴覚的参与枠組み(青点線)
- 人工物(モニタ・紙等)へのアクセス

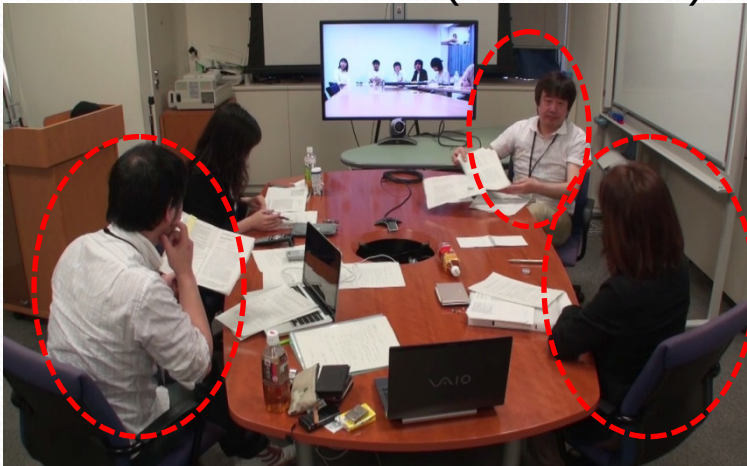


参与枠組み Goffman(1981)

産出フォーマット(Goffman, 1981)

ろう者にとっての産出フォーマット

ろう者
(Addressee)



発表者
(Principal)

手話通訳者
(Animator+Author)

Toky
0

- Animator
 - 言葉を(誰かの代わりに)発する役割
- Author
 - 言葉を(誰かの主旨に沿って)作り出す役割
- Principal
 - 産出された言葉の責任者
- Figure
 - 話の中の登場人物の役割

10年先に目指すもの

- 情報技術による支援
 - バリアフリーなインタラクション環境のデザイン
 - 実空間とバーチャル空間の調和的融合
- 社会基盤の構築
 - 誰もがアクセス可能な情報保障ガイドラインの整備
 - 当事者と共に学術的議論可能な場の提供